

市民のひろば

魅力あふれるいわきの創生
～いわきの芸術・文化・スポーツ～

レポート ②44

今月号は、さまざまなイベントに出演し、多くの方を笑顔にしている「いわきマジシャンズクラブ」事務局長の作山洋子さんに、同クラブ設立の経緯や活動などについてインタビューした内容をお伝えします。



作山洋子さん（いわきマジシャンズクラブ事務局長）

市民のひろば

Q いわきマジシャンズクラブを設立した経緯について教えてください。
小学生の時に見たマジックに深い感銘を受け、将来自分もマジシャンになりたいと考えたのがきっかけです。いわきにはマジックをしている団体がなかったので、新聞でメンバーを募り、昭和五十五年に設立しました。現在は、子どもから高齢者まで幅広い年代のメンバーが、楽しく活動しています。
Q 活動について教えてください。
市内のイベントに出演したり、子ども会や老人クラブ、福祉施設に訪問したりしています。また、マジックの普及を目的に市民講座の講師も務めています。練習は基本的に月一回ですが、イベント前は頻繁に行い、入念な準備をします。イベントや訪

問先によってお客さんの年齢層も全く異なるので、状況に応じてマジックの種類や見せ方を変え、より楽しんでもらえるような演出を心掛けています。
Q マジックの魅力は何ですか。
次に何が起こるか分からないワクワク感と摩訶不思議さを体感してもらえるところが魅力です。ワクワク感を感じたいという目的、誰かやっとならない新しいマジックを取り入れるのはもちろんのこと、演題を工夫するなど細部にもこだわっています。初めは興味がなかった方でも、マジックを見て感動していたり、目を輝かせて見入っていたりする姿を見ると、とてもやりがいを感じます。また、マジックをする側も見ている側も、年齢を問わず楽しめることも魅



イベントに向けて練習に励むメンバーの皆さん

力の一つです。マジックは器用でなければできないということはありません。意欲と練習次第で、誰でも覚えることができます。少しでもマジックに興味をお持ちの方は、ぜひ挑戦していただきたいです。
Q 今後の抱負をお願いします。
設立当初に比べると、マジックも浸透してきましたが、若い世代でマジックをする方が少ないという現状もあります。イベント出演や訪問など普及活動を続けていき、多くの方にマジックの楽しさに触れていただける機会を創出していきたいです。マジックはアイデアが重要なので、常に新しい発想が必要です。これからも現状に満足せず、見る方を引き付けるような舞台を作り上げ、お客さんを笑顔にしたいです。



演題に合わせて演出や衣装などの小物にもこだわり華麗なマジックを披露

地名の中の「いわき」

「田人」の成り立ち

現在の田人地区は、昭和十六（一九四一）年四月に田人村と貝泊・石住・荷路夫組合村が合併して成立したものです。田人村の主要集落だった黒田地区、旅人地区は、元々黒田村、旅人村でしたが、江戸時代には上黒田村と下黒田村、出旅人村と入旅人村にそれぞれ分離しました。いずれも農作物の生産力が高まっており、年貢米の徴収を容易にするため、分村したものでした。明治時代に入り、明治六

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。

（一八七三）年七月に旅人村へ、明治八（一八七五）年三月に黒田村へ、それぞれ元に戻しました。

その後、明治二十二（一八八九）年四月に、三百〇五戸を基準として、全国的な合併を促す市制・町村制の施行により、黒田村と旅人村、加えて南大平村が合併し、人口の多い黒田、旅人の一字ずつを採って田人村となりました。

一方、山間部の貝泊村、石住村、荷路夫村の三つの村では、いずれも単独では行政が執行できないため、事務を共同で行う組合村を設けました。昭和十六年の合併は、田人村と合併することで、この組合村の形態を解消しようとしたものでした。

その後の昭和三十（一九五五）年前後の昭和の大合併では、すでに人口が合併の基準となる八千人を超えている上、当時としては広域だったことから、さらなる合併対象とはなりませんでした。

（いわき地域学會 小宅幸一）
※いわき市内の昔の写真をお持ちで、提供いただける方は、ふるさと発信課（☎22・7503）までご連絡ください。



田人村大字黒田の品川黒田炭鉱（昭和30年代 板津弥吉氏提供）

こんにちは市長室から ②7



明るくなりました！ 「いわき市」

いわき市長 清水 敏 男

一時的に休止していましたが「こんにちは市長室から」を、今月号から再開しますので、引き続きよろしくお願いいたします。

私が4年前に市長に就任した頃は、震災・原発事故の影響のため、市内に暗い雰囲気まん延していましたので「明るく元気ないわき市」を創るというメッセージを、あらゆる場面で市民の皆さんに伝えてまいりました。

おかげさまで、4年を経て、市内に明るさ

が戻ってきており、市民生活にも元気が出てきていると感じています。

そのような中、皆さんに身近な取り組みとして、各地区自治会長さんなどから多くの要望があった、道路等の側溝堆積物の撤去と防犯灯のLED化を進めています。側溝堆積物については、全ての対象地区で本年度内の撤去を目標に事業を進めており、防犯灯については本年度から、市内に設置されている約2万7千灯のLED化を図るべく、蛍光灯などからの切り替え費用に対する補助を行い、3カ年をかけて実施する予定です。

夕暮れが早いこの時期、防犯灯が明るくなったと気付くことはありませんか？また、道路の側溝がきれいになって大変良かったといううれしい声も多数寄せられています。